

八上校区まちづくり協議会広報誌

# やかみ高城

第五号

## 将来に夢ある地域づくりを目指して

平成二十三年を振り返って

八上校区まちづくり協議会

会長 池田 正男



八上校区の皆様、新年明けましておめでとうございます。

常日頃、八上校区まちづくり協議会の活動に格別のご理解、ご支援を賜り厚く感謝申し上げます。

昨年三月十一日東日本大震災、福島原子力発電所の放射能汚染により未曾有の被害をもたらしました。被害に遭われた方々には哀悼の意を捧げたいと思います。

さて、四月に当協議会の会長という大役をお引き受けして、早八ヶ月が過ぎました。会長の名に値する務めができていますか疑問ですが、役員各部等の構成員と共に、校区住民の「コミュニティの形成」を目標に掲げ、具体的には活動方針、「三愛」を実践することにしました。その三つの愛とは、

- 一、歴史・文化・自然に接し、郷土を愛する人づくり。
- 二、人との出会い、語らいを愛する場づくり。
- 三、社会的弱者を愛する。

発行日：平成24年1月1日  
 発行者：八上校区まちづくり協議会  
 人口：2,332名（885世帯）  
 男1,135名 女1,197名  
 （平成23年11月末現在）



「丹波富士の日の出」(篠山市景観写真コンテスト「入選」作品) 提供者 森田秀幸(糯ヶ坪北自治会長)

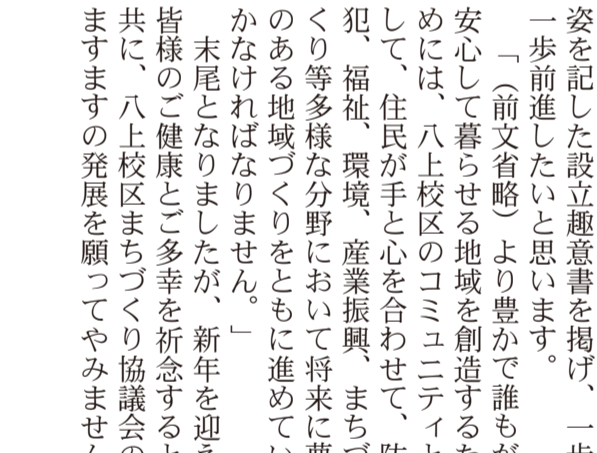
これらの愛を実践する活動を、各部が、実行委員会等を組織して、前例を取り入れた企画・立案により左記の事業に取り組みました。

- 六月 八上城跡クリーン作戦 (企画部)
- 七月 三世代ランドゴルフ大会 (体育部)
- ◎ふれあい夏祭り (地域おこし部)
- 九月 第一回八上ふるさと塾 (地域おこし部)
- ◎敬老会 (福祉部)
- 十月 ◎親睦運動会 (体育部)



以上が上半期の活動項目です。例年以上に多数の参加が得られ、努力した成果を得ました。しかし、反省すべき点もあります。それは、まだ十分に当協議会の組織と活動について、理解されていない点です。今後一層校区住民の自主・自立の精神に基づき、みんなの協議会とする努力が必要だと思います。平成二十二年三月六日に当協議会

- ◎保健福祉ワークショップ (福祉部)
- 十一月 ◎文化祭 (コミュニティ部)
- 十二月 ◎八上戦国ウォーク (地域おこし部)
- ◎親子の考古学体験学習 (地域おこし部)
- ◎三世代交流 わら草履・しめ縄作り (コミュニティ部)
- ◎青パト発隊式 (生活環境部)



八上戦国ウォーク：模擬合戦・講演会 (八上城跡本丸)

作品展示 (高城会館)

芸能発表 (八上小学校講堂)

### 八上校区敬老会

福祉部部长 河原 勇

篠山市及び八上校区まちづくり協議会の主催により、八上校区敬老会が開かれました。九月十九日(敬老の日)、八上小学校講堂には、八上地区敬老会対象者三八〇名のうち多くの方が、集われました。

八上小学校六年生の児童による『組体操演技』での歓迎セレモニー・米寿(満八七歳)の方々の祝福(今年度は十四名)・来賓祝辞などの式典に続き、演芸会では、「高城舞踊教室」の皆さんによる舞踊、「八上うたおう会」の皆さんの童謡・唱歌、「ダン伊藤とザ・美豚」の三線による歌と演奏などのあたたかい素敵な演芸でお祝いしました。今の日本を支えて来られた人生の先輩方に敬意を払うとともに、今後



八上うたおう会



八上小学校6年生の組体操



八上校区敬老会 (八上小学校講堂)

もお元気で後輩たちへのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

## ◆◆◆自治会だより◆◆◆

### 小さな集落・港自治会

港自治会長 池田 正男

私たちが港自治会(以下村)は、池上の東、糯ヶ坪の南にあり、村の北・西縁を田松川が流れ、南は、国道池上・杉線が走ります。面積は、約一・九平方キロメートル、市営港住宅九戸を含め、平成二十三年七月末現在、住民総数五十八人、三十一世帯、高齢化率(六十五歳以上)校区一の四十五・六%です。ほとんどが非農家です。保育園児・小学生は零。高校生は一名。中学生が二名です。

さて、港(湊)という不思議な自治会名は、明治九年、川路を利用して篠山から三田まで、川舟で物資を運んだ港に由来します。当村の北西隅周辺が、舟に荷を積み降ろす「糯ヶ坪浜問屋」や「水門」がありました。

村は、明治の終わり頃、新しく開かれた土地に各地から人々が集まり、できたようです。私の祖父は、愛媛県内子町から、阪鶴鉄道

(現福知山線)の技師として、篠山へ来て、住みついたと聞いています。

その後、村は戦前大変栄えました。が、今はその面影は有りません。ただ、公民館に飾られた一枚の感謝状に栄華が偲べれます。それは、昭和十二年三月二十二日、八上尋常高等小学校(現在の八上小学校)の建築に際し、当時のお金で、五十円を、婦人会が寄贈したというものです。一般の住宅が千円で建った時代に、六万円かけて建ちました。今では『価値ある木造校舎』として全国でも貴重な校舎と言われています。

子供の最も大切な時期を過ごす校舎に、高額な寄付をした村を誇りに思います。しかし、学校に通う小学生がいなくなるとは非常に残念です。今年、十数年ぶりに、行き先、旅程等を皆で話し合い、五月に玉造温泉と出雲大社、一泊二日の笑い笑いの続くバス旅行を行いました。最後に、二人に一人が高齢者という村の現実を考えますと、明日の村は在るのかと案じています。